令和８年度

日本海学講座

充実の３部構成!!

参加無料
要事前申込

県民カレッジ連携講座

「日本海学」とは？

日本海学は、日本海とその周辺および関連地域全体を、生命の源である海を共有する一つのまとまりとしてとらえ、海との関わりを軸にその自然・文化・歴史・経済などを総合的に研究し、新たな領域を創成するとともに、地域間の交流を促進し生命の輝きが増す未来を構想する取り組みです。

第1回 『海を渡った日本語―日本海および南洋、南米に注目して―』

富山県は、古くから日本海を通じて外の世界と結ばれ、近代以降は朝鮮半島、中国東北部、千島列島、南米、さらに南洋・オセアニアへと多くの人びとを送り出してきました。そうした移住の歴史のなかで、日本語もまた海を渡り、各地で継承され、変容し、新たな役割を担ってきました。今回の講座では、移住先における日本語がどのように変化し、その地に根付いていったのか、県人の移住の歴史とあわせて紐解いていきます。

1部：「富山から世界へ―移住の歴史と現地に生きた日本語」
講師　中井　精一（同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科教授）

2部：「ハワイ・南洋に残る日本語―移住・教育・継承の現在」
講師　ダニエル・ロング（東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授）

3部：ディスカッションパート
日本語が現地語と接触しながらどのように変化しているのか、日本語教育がその継承にどのような役割を果たしているのか、講師２名の対談をお楽しみください。

日時：令和８年 11月15日（日）13:30～15:30

会場：高志の国文学館 研修室101（富山市舟橋南町2-22）

第2回 『富山湾のさかなの未来を語る―変わりゆく海と漁業、地域のこれから』

「富山県は魚が美味しい！」という声を多く聞きますが、これは将来も続いていくのでしょうか？
富山湾の環境は変化していますし、富山湾の漁業も変化や衰退が起きています。半世紀近くにわたり富山湾のさかなたちを見つめてきた元水族館長と、海洋教育の効果検証や海業（漁村地域を中心とした観光等の多角化事業）のニーズ調査をしている新進気鋭の若手研究者が富山湾の今と今後について語り合います。

1部：「富山湾のさかなを育む地形や水塊構造の変化」
講師　稲村　修（魚津水族館アドバイザー・元館長）

2部：「親しみある富山湾と活気ある漁村地域を考える
―海洋大大学院生による活動・研究の記録より―」
講師　大屋　進之介（東京海洋大学応用環境システム学専攻博士後期課程２年）



3部：ディスカッションパート
「富山湾のさかなの未来を語る―変わりゆく海と漁業、地域のこれから」について、講師２名の対談をお楽しみください。

日時：令和８年 12月12日（土）10:00～12:00

会場：高志の国文学館 研修室101（富山市舟橋南町2-22）

お申込み方法

お申込みフォーム、メール・電話、FAXいずれかの方法でお申込みください。

●メール・電話、FAX●
受講希望回、氏名、連絡先（電話番号・メールアドレス）を明示のうえ、下記お問い合わせ先までお申込みください。

●お申込みフォーム●
お申込みフォームは
こちら⇒

お問い合わせ先

〒930-8501　富山市新総曲輪1-7　日本海学推進機構事務局（富山県多文化共生推進室内）
TEL：076-444-3156　FAX：076-444-9612　Email：adm@nihonkaigaku.org

日本海学　で検索！